

平成23年第3回大仙市議会定例会

市 政 報 告

平成23年8月30日
大仙市長 栗林次美

本日、平成23年第3回大仙市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、ご参集いただき誠にありがとうございます。

今次定例会でご審議をお願いいたします案件は、人事案4件、条例案4件、単行案5件、補正予算案5件、決算認定26件の合計44件であります。

なお、会期中に準備が整い次第、災害復旧にかかる補正予算案を追加提案する予定であります。

各案件につきまして、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

それでは、この場をお借りいたしまして、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況をご報告させていただきたいと存じますが、その前に、市営住宅の敷金にかかる事務処理ミスについてご報告いたします。

この度、平成22年度の決算審査におきまして、市営住宅の敷金にかかる事務処理について、台帳と現金が整合していないこと、また、退去者2名に対して敷金を二重に返還していたことが判明しております。

市営住宅の入居者からお預かりする敷金につきましては、台帳は各地域の事務担当課で管理し、現金は会計管理者が管理しておりますが、これまでの調査で、台帳に対して現金が1万4,400円多いことと、西仙北地域の愛宕住宅で平成20年度に4万5,600円、天神前住宅で平成21年度に1万8,000円の敷金を二重に返還していたことが分かっております。

ここに至る原因につきましては、現在さらに調査を継続しておりますが、いずれもチェック体制に不備があったことは間違いなく、調査結果を踏まえ、再発防止策や関係職員の処分を含め、今後の対応を検討してまいりたいと存じます。なお、二重に返還した2名の方には、事情を説明し返却していただくことをご了解を得ております。

このような事態となり、誠に申し訳なく、深くお詫びを申し上げます。

次に、6月23日から24日にかけての集中豪雨により発生した災害についてご報告いたします。

活発な梅雨前線の影響により、23日未明から24日正午までの累加雨量が、西仙北地域大沢郷地区で198mm、大曲地域で173mmとなるなど、

記録的な豪雨となり、神岡地域神宮寺地区で雄物川の水位が過去最高の7.74mを観測いたしました。この豪雨により雄物川の支流、土買川や楢岡川などの一部が氾濫したほか、丸子川の支流、福部内川の河川増水に伴う内水氾濫などにより、住居等の浸水、道路・農地等の冠水など、市内各地で被害が発生しております。

市では、23日午後11時に水防対策室を設置し、翌24日午前3時20分には、対策室を対策部に切り替えて、消防団や職員によるパトロールを行い、河川の水門閉鎖と同時に内水の排除作業にあたりました。24日午前8時には水防本部を設置して対応にあたりましたが、河川の増水スピードが早く、一部の地域に避難勧告を出すとともに、広域消防や消防団が孤立した世帯をボートで救出したほか、冠水に伴う道路の一時通行止めの措置をとっております。

その後、各河川の水位は、24日の正午をピークに下降し、25日未明には安全水位となったことから、被害状況の調査を本格化するとともに、市民の皆様と協力し、ごみの収集や浸水箇所の消毒、便槽の汲み取りなどを行ったところであり、大仙美郷クリーンセンターに搬入された水害ごみについては、233.5t、汲み取りした生し尿及び浄化槽汚泥は、55万1,610リットルに達しております。

今般の豪雨では、幸いにも人的被害はありませんでしたが、住宅の床上・床下浸水、道路の法面崩落や河川の河岸決壊、さらには、農作物の冠水、畦畔の崩落や土砂の流入、農林道の損壊などが各地で発生したことから、現在も、復旧等の対応を進めているところであります。

浸水被害者への見舞金につきましては、県からも支給されておりますが、本市では、7月11日の臨時議会において、大仙市災害見舞金支給条例を一部改正し、床下浸水を見舞金の支給対象に追加しております。これにより、床上・床下浸水を合わせて、550世帯・事業所が支給対象となり、8月10日までに全ての支給を終えております。

浸水被害の大きかった大曲地域丸の内町地区に常設の排水ポンプを設置する工事につきましては、近日中に発注し11月下旬に完了する予定であります。また、市民の皆様の自主防災対策を支援するため、土のう袋や砂入り土のうを購入した際の助成制度を創設しております。

なお、大曲地域福見町地区に設置している常設ポンプの能力強化と排水作業の迅速化を図るため、総合的な改善工事を行うこととし、今次定例会に予算の

補正をお願いしているほか、土買川の内水排除については、可搬式排水ポンプの導入を検討することとしております。また、福部内川の内水排除については、県において、その具体的な対策について検討していると伺っております。

道路・河川の復旧につきましては、特に被害が大きかった市道18カ所、河川20カ所について、現在国の災害査定を受けているところであり、認定後速やかに復旧工事を進めてまいります。

農地及び農業用施設被害につきましては、緊急に復旧を要する農道・水路等については、速やかに土砂の排除作業等を行ったほか、農家が行う災害復旧については、補助率を50%から75%に引き上げるなど、農家の負担軽減を図っております。

今般の災害に鑑み、国・県に対して、防災対策の観点から、緊急に河川改修等の要望を行ったほか、今後も台風や局地的な豪雨の発生に備え、引き続きその対策に万全を期するとともに、防災体制の強化を推進してまいります。

次に、東日本大震災の被災地・被災者支援のその後の状況についてご報告いたします。

被災地に対する救援物資の輸送につきましては、現在までに合計21次にわたり実施しておりますが、季節の変化等により被災者のニーズが変わり、殺虫剤や、暑さ対策としての首筋を冷やすバンド、スポーツドリンクなどを届けております。

遠野市に設置した「だいせん応援ハウス」からの市民ボランティア活動につきましては、6月18日をもって終了しておりますが、約2カ月の活動期間に、延べ655人が被災地での支援活動を行っております。

この取り組みは、ボランティア派遣先である宮古市、大槌町、陸前高田市等の被災者の方々から感謝されるとともに、災害ボランティアの先進的事例として遠野市社会福祉協議会等の関係機関から高い評価をいただいております。

なお、被災地では引き続き復旧作業が必要とされていることから、ボランティア要請の多い陸前高田市の旅館に活動拠点を移し、第1回目として、7月6日からの1カ月間に112人のボランティアが活動したほか、第2回目として、9月15日からの1カ月間を新たに計画しております。

大仙市に避難されているの方々につきましては、4月のピーク時には232人となっておりますが、8月25日現在でも、66世帯146人の方々も避難

生活を送られており、引き続き、ボランティアの協力を得て運営している避難者サポートセンターにおいて、健康管理や就業等の支援を行っております。

被災地・被災者支援のための寄付金の状況につきましては、6月の市政報告後に、国際ソロプチミスト大曲、ゆきんこカード事務局、台湾新北市の中和国際青年商会、たろんペレーシング秋田、日本民謡協会秋田県南会などから223万6,364円の寄附をいただいております、現在までの合計額は362万9,496円となっております。

それでは、各部局ごとの主要事業の進捗状況並びに諸般の状況をご報告させていただきます。

はじめに、総務部関係について申し上げます。

職員採用試験につきましては、一般行政事務と保健師、建築・土木の技術系職員合わせて15名の採用予定に対し、236人の受験申し込みがあり、9月4日に大曲交流センターを会場に一次試験を実施いたします。

また、大曲仙北広域市町村圏組合消防職員の採用試験につきましては、上級消防・初級消防及び初級救命を合わせ10名程度の採用予定に対し、140人の受験申し込みとなっております。

本年度の大仙市総合防災訓練につきましては、明日8月31日に中仙地域の5カ所を会場に、市民参加型の実践的な訓練や防災関係機関相互の連携訓練等を内容とし開催することとしております。東日本大震災により防災意識が高まっていることから、多くの市民の皆様積極的に参加していただき、地域防災力の向上を図りたいと考えております。

次に、企画部関係についてであります。

大曲通町地区市街地再開発事業につきましては、全地権者の同意を得て、地権者11名、参加組合員1名の計12名により、6月14日に本組合の設立総会が開催されております。設立総会において、理事長に大曲商工会議所会頭が就任したほか、副理事長には秋田県厚生農業協同組合連合会、羽後交通株式会社及び本市からそれぞれ選任されており、本事業の着実な実施に向けて、市としても積極的に参画していくこととしております。

現在、各種建物の実施設計のほか、11月下旬の知事認可を目指し権利変換

計画の策定作業が進められており、年明けの1月からは建物解体作業に着手する予定であります。今後は、検討委員会を立ち上げ、学識経験者等の意見を伺いながら工事の発注方法等を協議・検討していくこととしております。

「第2回秋田県鉱山サミット」につきましては、7月8日、協和地域の「大盛館」を会場に開催され、県内の鉱山資料館等の関係者が一堂に会し、鉱山跡地を活かしたまちづくりなどについて情報交換を行ったほか、これに合わせ、荒川鉱山跡地の現地見学会と「和ピア」での記念講演会を開催しており、地域の産業遺産として荒川鉱山の文化的価値を再認識する機会となったところであります。

非核平和都市宣言事業につきましては、7月26日から28日まで、市内の中学生6名を非核平和レポーターとして広島市に派遣し、現地で核兵器の恐ろしさと平和の尊さについて学んでいただいたところであり、その成果を9月20日に大曲市民会館で開催する「市民平和の集い」で発表していただくこととしております。

ふるさと納税につきましては、これまで延べ159人から2,000万円を超える寄附をいただいております、この寄附を活用した初めての事業として、児童生徒が郷土の歴史や文化にふれ「ふるさと」を考える機会を創出するとともに、寄附をいただいた方の思いを形に残し、ふるさと納税制度のさらなる周知を図ることを目的として、市内小中学校を対象に「ふるさと納税文庫整備事業」を実施することとし、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

地上アナログテレビ放送につきましては、7月24日で終了し、地上デジタルテレビ放送に完全移行となりましたが、地理的な条件などにより、地上デジタル放送が受信できない世帯等については、総務省東北総合通信局や「デジサポ秋田」と連携をとりながら、難視聴解消に向けた技術的な対応を行ってまいります。

地域情報化の推進につきましては、通信事業者による光ケーブル網の整備が11月1日をめどに完了すると伺っており、これにより市が平成22年度に整備を進めてきた地域と合わせ、市内全域で誰もが超高速情報通信を利用できる環境が整備されることとなります。なお、整備完了後には、開通式典や関連イベントを開催し、「光のまち」の誕生をお祝いしたいと考えております。

友好交流都市の韓国唐津郡との交流につきましては、8月18日から4泊5日の日程で、大曲地域3中学校の生徒宅に韓国の中学生8名がホームステイし

ており、ホストファミリーと一緒に地域の文化や自然に触れながら友好を深めております。

なお、本年度、唐津郡の郡守と議会議長を「大曲の花火」に招待することとしておりましたが、唐津郡の来年1月1日からの市への昇格が決まり、9月に新庁舎への移転を控えていることや、猛暑と豪雨による農業被害が発生したことなどから日程調整がつかず、招待を1年延期したほか、バドミントン競技を通じたスポーツ交流についても来年に延期しております。

その他の国際交流につきましては、日韓両国の相互理解と交流促進を目的とした韓国の団体である「韓日社会文化フォーラム」から、災害ボランティア派遣への協力要請があり、市では、6月から月一回の頻度で、ボランティア活動拠点までのバス送迎を続けております。

また、東日本大震災の影響により、台湾からの誘客の柱となっているプログラムチャーター便の運行が中止されていることから、現在、県が山形県や観光事業者と連携し、運行再開に向けた様々な活動を行っております。

この活動に連動し「台日鼓舞節参加団体連絡協議会」が取り組んでいる、9月8日から12日まで台湾で開催され、民俗芸能や祭りの公演、食の博覧会や観光展示などが行われる「2011台湾鼓舞節」への参加事業に、「大曲の納豆汁」と「大曲のカレー旨麺」が出展することから、台湾との交流促進や食文化等を通じた観光振興を図るため、本市からも山王丸副市長と観光担当職員等が参加することとしております。

少子化対策としての結婚支援につきましては、5月に設置した「男女の出会い・結婚支援を考える会」において、8月までに4回の会議や研修会を行い、結婚支援の具体的な取り組みや事業内容等を協議しており、今次定例会に事業実施にかかる予算の補正をお願いしております。

次に、市民部関係についてであります。

東日本大震災の影響による電力不足対策につきましては、6月に「大仙市節電対策基本方針」を策定し、節電目標を市民、事業者については15%以上、市については20%以上として取り組んでいるところであります。

市では、市民の皆様からご協力をいただきながら、照明や空調の使用抑制などを行っており、本庁舎及び支所施設における6月から7月末までの電気使用量の削減率が目標を上回る前年比27.7%となるなど、一定の成果をあげて

おります。

事業者への啓発活動につきましては、企業団体等の総会時に、東北電力から電力供給の状況説明や節電への協力要請をしていただいたほか、6月20日には、企業連絡協議会、大曲商工会議所、大仙市商工会の共催による節電に伴う労務管理に関する説明会が開催されております。また、製造業を中心に、節電に対する各社の対応状況の実態把握に努めるとともに、各団体の会報などで市の取り組みを周知しております。

今後も長期的な節電の取り組みが必要とされることから、引き続き、市民並びに事業者の皆様に対し、節電のご協力をお願いしてまいりたいと考えております。

本年4月から実施のLED照明の購入助成事業につきましては、7月末現在で、申請件数316件、助成額が641万7,000円と予想を超える伸びを示しており、今後も市民の皆様が節電意識の高まりの継続が予想されることから、6月定例会に続き、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

環境学習の推進につきましては、本年度は「節電」をテーマに、夏休み期間中に市内全26小学校の4年生674人が「子どもエコチャレンジ」に取り組んだほか、市内全12中学校の生徒と公募による家庭合わせて2,011世帯が「環境家族宣言」に、市内全6高等学校の生徒と公募による家庭合わせて2,573世帯が「節電アクション」に取り組んでおります。

また、親子環境学習事業として、7月29日には姫神公園に33人、8月9日には中仙地域の芥内川に32人が参加し、昆虫や魚の生態など自然環境について学習したところであります。

第4回大仙市安全・安心まちづくり推進大会につきましては、7月19日に大曲市民会館において市民約400人が参加し、交通事故や犯罪の防止、青少年の健全育成に尽力された7個人3団体の表彰を行ったほか、「東日本大震災支援活動を通じて防災を考えよう」をテーマに、遠野まごころネット前隊長の林 崎慶治はやしざきけいじ氏による基調講演と、「交通安全は家庭から」と題した大声コンテスト決勝大会を行っております。

交通安全対策につきましては、「シートベルト・チャイルドシート着用推進運動」として、7月に市内大型小売店舗などにおいて、大仙市交通安全母の会の協力のもと啓発活動を実施したほか、8月1日から10日までの「夏の交通安全運動」では、交通指導隊員による交通安全車両パレードや主要交差点など

で街頭指導を行い、交通事故防止に努めております。

ごみの排出抑制と適正処理の推進につきましては、大仙美郷クリーンセンターに搬入された平成22年度の本市のごみの量は、家庭系が1万8,635t、事業系が1万191t、合計2万8,826tと前年度比で835tの減となっております。市民1人1日当たりのごみの量に換算すると前年度比で1.8%減の874gとなり、ごみ減量化に対する意識が着実に高まっているものと認識しております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

予防接種事業につきましては、平成23年5月20日付けで予防接種法施行令が一部改正され、副反応の問題により接種の勧奨を差し控えていた日本脳炎予防接種について、新たなワクチンの開発により従来どおり接種できるようになったほか、この差し控えていた期間に接種の機会を逸した方についても接種が可能となっております。

また、5年間の暫定措置として実施している高校3年生を対象とした麻しん・風しんの第4期定期予防接種の対象者に、修学旅行等により海外渡航する機会が多い高校2年生相当の年齢の方が追加されております。

この制度改正に伴う日本脳炎と麻しん・風しんの予防接種については、今次定例会に接種にかかる予算の補正をお願いしております。

子宮頸がん予防ワクチンの接種につきましては、ワクチンの不足からこれまで接種を控えておりましたが、供給のめどが立ち、7月20日から受託医療機関で接種を開始しております。開始にあたりましては、市広報、保護者や高等学校に対するお知らせ等を通じて、一人でも多くの方に接種を受けていただくよう周知に努めております。

大腸がん検診につきましては、受診率向上を図るため、平成23年4月20日現在で本市に住民登録、外国人登録をしている対象者のうち、40・45・50・55・60歳の未受診者に対して「大腸がん検診無料クーポン券」と「検診手帳」を配布して追加検診を実施することとし、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

なお、モデル市として国の研究事業に参画している大腸がん検診研究事業については、本年度の対象地域となっている太田地域、中仙地域において研究事業に参加された方々は、便潜血検査が448人、内視鏡検査が446人の計

894人で、受診者の約60%の方に参加いただいております。

自殺予防対策として取り組んでいる「こころの健康相談事業」につきましては、8月から、臨床心理療法士による「こころの健康相談」や個別カウンセリングを行う「ほっとスペース事業」を実施しております。これは、心の悩みを気軽に相談することで相談者の気持ちの整理や問題解決を支援することを目的としており、8月1日から8月25日までの期間に22件の相談を受けております。

介護保険施設や医療施設等の停電対策につきましては、東日本大震災の教訓を生かし、災害等による停電の際に、入所者や患者等の安全と安心を確保するため、自家発電機購入費の助成制度を創設いたしました。

これは、県が実施している高齢者施設発電設備整備事業費補助への上乗せ助成と県補助の対象外となっている単独型デイサービス事業所及び20床未満の入院病床を有する医療機関に対し助成するものでありますが、対象となる事業所に対しては、個別に制度内容をお知らせし、本助成制度の活用による自家発電機の整備を推進しているところであります。

災害時の福祉避難所の設置につきましては、市内の広域入所型介護保険施設等27施設を福祉避難所とすることとし、これを経営する社会福祉法人等との協定締結を予定しております。

要援護者の避難支援につきましては、主な支援対象者のカルテとも言うべき個別計画の作成について、8月25日現在で634件が完了しており、ほぼ目標を達成しております。

障がい者通所施設につきましては、社会福祉法人あけとおりが、旧神岡保育園跡地に建設を進めておりました障がい福祉サービス事業所「テnderランドリーファクトリー」が、7月1日に開所し、新たに採用された15人のスタッフと共に、15の方が就労に向けた訓練に励んでいると伺っております。

次に、農林商工部関係についてであります。

東日本大震災における原子力発電所事故に伴う放射線の影響につきましては、8月4日に国が秋田県を調査対象区域に指定したことから、食品衛生法に基づき、県が中心となり農畜産物の検査を行っております。

これを受け、本市におきましても、農家等の不安をできる限り払拭するため、市独自に放射線量測定装置を購入し調査することとしております。

全国的に問題となっております放射性セシウムを含んだ稲わらの状況につきましては、市内の畜産農家が保管していた稲わらからも放射性セシウムが検出されたことから、その影響が懸念されたところでありましたが、幸いにも牛に与えられていないことが確認されております。

大仙市内の農家が栽培したモロヘイヤから食品衛生法の基準値を超える残留農薬が検出された問題につきましては、生産農家への立入検査が行われた結果、このモロヘイヤは、検出された農薬を使用して栽培されたものではなく、水稻の育苗に使用したハウス内で栽培されたものであることから、育苗の際に使用した農薬を吸収したことが原因と推測されております。今回の検出値は、健康に影響がない値とのことでありますが、今後このような事故が起こらないよう、関係機関・団体が一体となり食の安全・安心に対する取り組みをさらに徹底してまいります。

農業委員会の統合につきましては、7月20日に、市全域を区域とした大仙市農業委員会を設置し、農業委員会委員の一般選挙が7月24日に告示され、31日に投開票が行われました。これにより、選挙による40人の委員が決定し、推薦委員7人を合わせて、47人の農業委員会委員が決定しております。

稲作につきましては、4月の低温や雪消えの遅れ等の影響から田植え作業が遅れ、出穂期は平年より2日遅い8月6日となっております。また、穂数については平年比92%となっております。

農地・水・環境保全向上対策につきましては、7月9日に、仙北^{みどり}水土里紀行「みんなで見学、いろんな農地・水」が県地域協議会仙北支部の主催で行われ、現地見学会をはじめ、活動写真展や景観植物相談コーナー、共同活動による製品紹介等に多くの方々の参加があったところであります。

第85回全国花火競技大会につきましては、8月27日に国土交通省や秋田県警、仙北地域振興局、JR東日本、東日本高速道路株式会社、東北電力株式会社、羽後交通株式会社、広域消防本部などの協力のもと盛大に開催され、天候にも恵まれ約70万人の人出となったところであり、大会101年目としての新たな一步を飾るにふさわしい大会となりました。

また、本大会では、東日本大震災において、災害時相互援助協定や市民ボランティア活動により本市が支援している宮古市、大槌町、陸前高田市、大船渡市で被災された方々や本市に避難されている方々、「だいせん応援ハウス」の活動にご協力いただいた「遠野まごころネット」の関係者の方々を対象に、合

わせて286人を栈敷席にご招待したところであり、参加された皆様から喜びの声をいただいております。

全国花火競技大会に合わせて新たに開催された「だいせん花火と食のおもてなし事業 大曲の花火ウィーク」につきましては、中心市街地の活性化策として、国や市の補助を活用しながら、大曲商工会議所が主体となり実施したものであり、8月21日からの1週間、花火通り商店街や丸子橋特設会場を主会場に、地元花火作家による花火ショーや街中音楽ショー、ご当地グルメなどの多彩なイベントが行われ、市内外から多くの方々が訪れ賑わいを見せたところがあります。

「だいせん大曲フィルムコミッション」につきましては、7月26日、大曲商工会議所、大仙市商工会、大曲青年会議所、秋田おばこ農協、観光業者など関係42団体が参加し、設立総会が開催されました。本年度は、ロケーション素材の発掘収集やガイドブックの作成、専用ホームページの開設、制作会社やメディアなどへの売り込みなどに取り組む計画となっております。

また、9月17日・18日の両日に青森市で開催される「2011北海道・東北B-1グランプリ」に、大曲商工会議所青年部が活動母体である「大曲の納豆汁」旨めもの研究会が出店いたしますが、本市の食文化を発信する絶好の機会であることから、担当職員を同行させるなど市も積極的に参画することとしております。

夏まつりにつきましては、7月9日には「協和七夕花火」、8月6日には、「太田の夏まつり」、8月6日・7日の両日には「夏まつり大曲」が行われたほか、8月15日には「彩夏せんぼく2011」と「ふるさと西仙まつり」が、翌16日には「角間川盆踊り」と「ドンパン祭り」などが開催され、一部のまつりに雨の影響がありましたが、いずれも盛会裡に終了しております。

雇用対策につきましては、高校生等の就職に対する意識を深めるため、大曲仙北、横手、湯沢の雇用開発協会の主催により、県南地区職場研修事業が7月22日から8月3日まで実施され、大曲仙北管内では、市内27事業所のご協力をいただき、延べ138人が参加しております。

県の雇用対策基金事業の活用状況につきましては、ふるさと雇用再生臨時対策基金事業及び緊急雇用創出臨時対策基金事業において、市の直接雇用と業務委託により、現在27事業で108人が雇用されております。引き続き雇用の拡大を図るため、震災対応に関する事業などについて、今次定例会に予算の補

正をお願いしております。

次に、建設部関係についてであります。

大曲駅前第二地区土地区画整理事業につきましては、大花町地区の本年度移転対象物件20戸中15戸の権利者と補償契約を締結済みであり、現在残る権利者と交渉を続けております。

JR大曲駅の東西地区を結ぶ重要な環状道路である中通線の整備につきましては、アンダーパスの整備工事については、大花町側の鋼矢板の打ち込みを8月中に完了し、9月からは地盤改良を開始する予定であり、区画道路新設工事・水路新設工事・下水道整備工事についても、家屋移転交渉が整い次第発注できるよう作業を進めております。

また、本年度から着手している駅東線までの未整備区間については、詳細設計業務を7月上旬に発注済みであり、今後は、9月上旬に用地調査業務を、11月上旬には建物調査業務を発注する予定であります。

都市計画区域の再編につきましては、大仙市都市計画マスタープランの方針に基づき、大曲都市計画区域と西仙北都市計画区域を統合し、さらに中仙・仙北地域の一部を区域に加えることとしており、9月上旬に県の区域決定の告示が予定されております。

道路整備事業につきましては、社会資本整備総合交付金事業の2路線のうち中仙4号線については11月末の供用開始を予定しており、平成24年度の西仙北地域の小学校統合に合わせ通学路対策として整備を進めている上ノ台1号線改良工事については、用地提供者である国との調整がつき次第発注できるよう作業を進めております。

紅葉シーズン前の完了を目指している真木真昼県立自然公園内を通る市道横沢バチ沢線の整備につきましては、8月上旬に安全対策工事を発注しており、9月末の完了を予定しております。

きめ細かな交付金事業の道路・橋りょう費及び河川費につきましては、全35カ所の工事のうち、18カ所が完了し、3カ所が発注済みであり、残る14カ所については発注に向け作業を進めております。

地方特定道路整備事業の宮林線につきましては、9月末の完了を目指し、現在舗装工事を進めております。また、道路及び河川にかかる市単独事業につきましては、全25カ所の工事のうち、1カ所が完了し、14カ所が発注済みで

あり、残る10カ所については発注に向け作業を進めております。

住宅リフォーム支援事業につきましては、8月15日現在の申請件数は241件、補助金額にして約5,100万円、対象工事費は約6億8,600万円となり、ほぼ昨年度と同程度の事業実施状況となっております。

木造住宅耐震改修等補助事業につきましては、市民の住宅の環境改善、耐震化を推進するため、さらにPR活動に努めてまいります。

次に、国、県関係工事についてであります。

雄物川中流部の河川改修事業につきましては、協和地域の福部羅樋門や西仙北地域の寺館・強首第一・木売沢・木原田の各樋門の新設工事に着手しているほか、南外地域の西板戸地区においては堤防敷地等の用地取得を進めており、今後築堤や護岸工事を実施する予定と伺っております。

また、協和地域峰吉川地区の築堤事業については、早期に事業着手できるよう、用地調査等を進めていると伺っております。

国道13号関連の神宮寺バイパス事業につきましては、北檜岡地区の現道拡幅区間2.4kmにかかる用地買収と歩道・路肩の拡幅工事を引き続き進めていると伺っております。

また、峰吉川交差点改良については、現在工事発注に向け、公安委員会との協議と並行して用地取得に向けた作業を進めていると伺っております。

大曲橋架け替えにつきましては、橋梁上部工工事が引き続き進められており、左岸側の西根橋については、9月上旬の供用開始が予定されております。

次に、上下水道部関係についてであります。

上水道事業につきましては、経済対策として前倒しで発注していた3件の工事について、7月末日までに完了しすでに供用を開始しております。

また、本年度事業の7件の工事のうち、小貫高畑地内の2カ所の配水管改良工事については、現在、市道飯田線側の工区が約70%、笑の口市営住宅側の工区が約90%の進捗率となっており、飯田字家ノ前地内の配水管改良工事は、7月下旬に発注を終え8月に工事を開始しております。

なお、残る4件の工事については、公共下水道整備事業及び大曲駅前第二地区土地区画整理事業に伴う配水管移設工事となっており、今後、両事業の進捗状況に合わせて発注する予定であります。

大曲橋架け替えに伴う配水管添架工事につきましては、事業費を2億円程度と見込んでおり、国土交通省の河川占用許可を待って9月中には発注できるものと考えております。

なお、本市の上水道事業は地方公営企業法に基づく事業であり、議会の議決なしに契約できるものでありますが、市内業者に留意した対応を進めてまいりたいと考えております。

平成19年度からの5カ年継続事業である西仙北地域大沢郷地区簡易水道施設整備事業につきましては、最終年度となる本年度の工事が8月下旬に完了し、計画事業すべてが終了したことから、10月下旬に事業完了の式典を開催したいと考えております。

公共下水道につきましては、補助・単独合わせて大曲、神岡、中仙、南外地域において管渠整備15件と中継ポンプ施設工事1件を発注済みであります。

農業集落排水につきましては、大曲地域角間川地区において処理施設関係工事3件と中継ポンプ施設工事1件、太田地域三本扇地区において管渠整備4件、処理施設場内整備1件、中継ポンプ施設工事1件を発注済みであります。

次に、教育委員会関係についてであります。

学校規模適正化の推進に伴う神岡、西仙北、南外地域の小中学校の統合につきましては、校歌・校章の制定や遠距離通学となる児童生徒に対する通学支援、現在の刈和野小学校の校舎棟増改築などについて、対象地域の保護者や地域住民の皆様へ説明し協議を重ねた結果、一定のご理解が得られたものと考えております。また、統合が予定されている学校では、こころのプロジェクト事業やダンス学校キャラバン隊などを活用して、児童生徒による相互の交流学習が盛んに行われており、今後も引き続き、来年4月の統合に向け準備を進めてまいります。

学校施設の耐震化につきましては、2カ年の継続事業として実施している大曲小学校の耐震工事が、現在92%の進捗率となっており、この工事の完了により市内全ての小中学校で耐震化が図られることとなります。

学校教育活動につきましては、東日本大震災に伴う様々な影響があったものの、子どもたちは落ち着いて学習を進めております。また、被災者の方々のために、義援金の募集のほか、被災地である大船渡市、大槌町、気仙沼市、東松島市などの学校に対し、学用品、通学用ヘルメット、うちわ、花の種やプラン

ター花壇を贈る活動などを行っており、被災地の方々に喜ばれるとともに、こうした支援活動そのものが本市児童生徒の人的成長につながるものと期待しております。

小・中連携教育実践研究として国の指定を受けている横堀小学校と仙北中学校の外国語活動・外国語教育を柱とした研究事業については、6月と7月にそれぞれ国立教育政策研究所センター長と文部科学省教科調査官の視察が行われ、全国に発信できる実践研究として注目されております。

また、8月1日の開催で9回目となる「中学生サミット」については、平成19年の発足時に提唱された「あいさつ運動」が、小中学校連携の下に一層活発化してきており、協和小学校の事例が新聞に掲載されるなど、取り組みの成果が子どもたちに根付いてきております。

生涯学習の推進につきましては、6月30日に大仙市芸術文化協会創立5周年記念式典が開催されたほか、7月24日には、市内外から77人の参加を得て第6回大仙市民交流将棋大会を開催しております。将棋大会前日の23日には、小学生を対象とした「どうぶつ将棋」の講習会等を開催し、市内の小学生30人がプロの招待棋士の指導を受けたところであります。

また、8月15日には大曲市民会館において成人式が行われ、756人の出席のもと、新成人を祝福したところであります。

スポーツ振興につきましては、8月17日から19日までの3日間、インターハイ「なぎなた競技」が仙北地域のふれあい体育館を会場に行われ、全国から約500人の選手・役員が参加し、市内高校の選手も活躍を見せるなど、熱戦が繰り広げられたところであります。なお、大会関係者からは、素晴らしい環境で競技を進行することができたと、感謝の言葉をいただいております。

また、第20回全県550歳野球大会が、7月30日からの3日間、南外地域を中心とする4会場において、県内各地域代表の32チームの参加により開催されたほか、9月17日から開催予定の第33回全県500歳野球大会については、昨年より1チーム多い過去最高の173チームの参加が決定し組み合わせ抽選会を終えております。

高校、大学野球部の合宿誘致につきましては、8月5日から、神岡・中仙・協和・太田の各地域において、大正大学、清和大学、成城大学、横浜商科大学の硬式野球部、立教大学の準硬式野球部、高校では、学芸大付属高校、大館鳳鳴高校、盛岡第一高校の硬式野球部の合宿が行われ、練習試合や野球教室を通

じて地元との交流を深めております。

旧池田氏庭園につきましては、仙北中学校の生徒にもボランティアとして協力をいただきながら、8月15日から19日までの5日間、インターハイの開催に合わせて特別公開を行ったほか、昨年同様大曲の花火の翌日にも公開を行っております。この期間中、予想を上回る約900人の方々が観覧に訪れており、庭園の整備が進み、文化遺産としての価値が高まってきているものと考えております。

また、8月21日には、西仙北地域大沢郷宿地区で「亀田街道まつり」が開催され、往時をしのぶ仮装姿での行列や御番所跡^{ごばんしよあと}での供養が行われたほか、市指定無形民俗文化財の「椒澤番楽」^{はじかみざわばんがく}が保存会の皆さんによって披露されております。

最後に、財政状況についてであります。

平成22年度決算につきましては、普通会計ベースで歳入総額が518億7,266万円、歳出総額が508億9,383万円となり、歳入歳出の差し引き額は9億7,883万円となっております。この額から、翌年度に繰り越す財源を除いた実質収支は7億9,229万円の黒字となっております。

また、平成22年度においては、財政調整基金からの取り崩しを行わず、6億5,054万円の積み立てを実施したことなどから、財政調整基金の増減額等を反映した実質単年度収支は6億5,473万円の黒字となり、2年連続の黒字決算となっております。

なお、企業会計となる「市立大曲病院事業会計」及び「上水道事業会計」の決算につきましては、収益的収支において、両会計とも黒字となっております。

次に、主な財政指標につきましては、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、89.1%となっており、昨年度と比較して1.2ポイント改善されております。改善の主な要因といたしましては、歳入において地方交付税や地方特例交付金が前年度を上回ったことや、歳出において職員の人件費などが前年度を下回ったことによるものであり、今後も経常経費の縮減に努め、比率の改善を図ってまいります。

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき公表が義務づけられている健全化判断比率のうち、実質赤字比率につきましては、平成22年度の

普通会計決算が黒字であるため該当しないものとなっており、連結実質赤字比率についても、すべての会計で黒字又はゼロ決算であるため該当がない状況であります。

実質公債費比率につきましては、18.8%と昨年度より0.2ポイント改善されております。この比率は過去3カ年の平均値であり、単年度の比率は、前年度を0.3ポイント上回る18.9%となっております。

また、将来負担比率につきましては、168.1%と昨年度より20.2ポイント改善されております。これは、国の地方財政対策により地方交付税が増えたことや、市債残高及び職員数が減少したことなどによるものであり、今後とも、市債発行額の抑制や職員数の適正管理に努めるなど、比率の改善に取り組んでまいります。

また、健全化法第22条に定める公営企業会計の資金不足比率については、資金不足を生じた公営企業がないため、該当しないものであります。

本市の財政運営は、依然として交付税等の依存財源に頼っており、厳しい状況ではありますが、今後も自主財源の確保や経常経費の縮減等に努めていくとともに、仙北組合総合病院の改築整備などをはじめとした重要施策を着実に実施してまいりたいと考えております。

以上、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況をご報告申し上げましたが、今後とも市民並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げまして、招集のあいさつと諸般の報告とさせていただきます。